

## 2024 年度事業報告

### 特定非営利活動法人ふぉーらいふ

#### 総括

不登校状態にある児童・生徒が、法人の教育理念「自主」「自立」「生活と命」にもとづく体験学習活動などへ、主体的に参加した。また民間や自治体などの助成に申請し、自然体験活動や地域交流などを企画。学校外で学び育つ地域の子どもたちに向け、体験や学びの機会を提供した。

また、行政や福祉関係の場で設けられる、教育・不登校に関する施策提言の場へ参画し、情報発信に努め、不登校に対する地域社会の理解を深めるよう努めた。

また本年度も、外部からの講演依頼を受け、職員が登壇したほか、神戸市垂水区社会福祉協議会ならびに神戸市垂水区地域協働課との協働事業を通じて、当スクールならびに当法人が培ったノウハウなどを地域活動団体へ還元することで、謝金や委託費を得るなど、事業収入の多様化を図った。

#### (1) 青少年が主体となって総合的に学び、育ちあうフリースクールの運営

##### ●フリースクール ForLife

毎週月・火・水・金に、フリースクール ForLife を実施した。

##### 1. 自然体験・仕事体験の実施

神戸市青少年育成支援事業補助金による助成を受け、里山工房で自然体験活動を実施。学校外で学び育つ小・中学生の一般参加者と小学校低学年部あかてみあの子どもを含め、計31名が参加。

現地では、指導者のもとで、学校に行きづらい子どもたちが火起こしや木工作品作りを通して、道具の使い方、自然との共生などを学んだ他、豚汁作りや餅つきなど自然の中での料理体験も行った。



##### 2. 地域行事への参加

5月・11月に地域行事に参加し、缶バッジ体験ブースを出展した。はじめは緊張して上手く接客できなかった子どもも、回数を重ねるごとに慣れていき、達成感を得ることが出来た。接客体験（職業体験）は子どもたちの成功体験となり、自信に繋がっている。



##### 3. その他の活動について

2月にフリースクールの作品展と文化祭「仲間展」を実施。卒業生を含む35名が参加・来場した。作品展では、自分たちの作った作品を飾りつけし、お客様へ対応も含めて、子どもたち中心となって作り上げることができた。仲間展では、子どもたちが催し物のアイデア出しから行い、話し合いを重ねた。当日は缶バッジ作り、アイス屋さん、イラスト販売、手作りカレンダー販売、楽器演奏コーナーをそれぞれ子ど



もたちが担当。大きな反響があり達成感を得ることができた。

## ●小学校低学年向けフリースクールあかでみあ

毎週木曜に、小学校低学年向けのフリースクールあかでみあを実施した。

### 1. 表現活動の実施

陶芸やごっこ遊び等の表現活動を好む子どもが多く在籍しているため、24年度はひょうごコミュニティ財団による助成を受け、演遊舎のみなさんをお呼びし、参加型の劇遊びを実施した。世界に引き込まれて、上手に自己表現することができていた。他者の発想に触れることで刺激を受け、発想力や創造力の育成に繋がった。



参加型の劇遊び

### 2. 自然体験の実施

ひょうごコミュニティ財団による助成を受け、しあわせの村で自然体験(デイキャンプ)を実施した。火起こしや調理体験を行う中で、仲間と協力することの大切さを学ぶことができた。その後アスレチック広場で友だちと協力しながら進む場面も多く、自然な形で助け合いの姿勢が育まれていた。



デイキャンプで BBQ

### 3. 外部の野外体験活動に参加

フリースクール小学校低学年部あかでみあ・ForLife 合同行事として特定非営利活動法人 CHILL によるスノーボード体験に参加。六甲山スノーパークの雪山は非日常的な光景で、自然への興味関心の刺激に繋がった。初めは不安そうだった子どもたちも、徐々に自信をつけ、仲間と励まし合いながら楽しみ、挑戦する心を育むことができた。



スノーボード体験

## (2) 学習およびコミュニケーションに関する支援事業

### 1. 放課後クラブについて

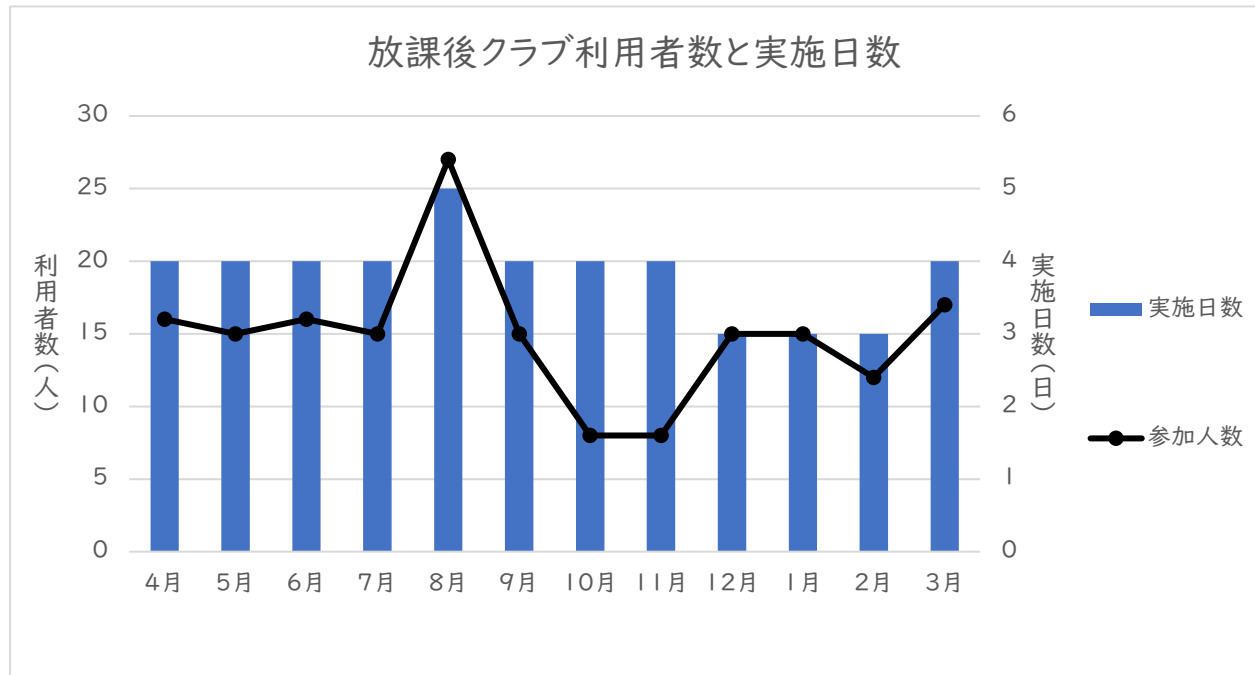
毎週土曜 10 時 30 分に開催し、年間でのべ45日、発達障害などの学びづらさがある小学生の学習支援を実施し、各回平均で約4名の利用者の支援を行った。また、夏休みには専門の講師を招いて「夏休み宿題やつつけ隊」(作文・木工)を2日間企画・開催し、1日平均6名が参加した。

毎月の延べ利用人数は、図1の通り。



作文教室

(図1) 放課後クラブ利用者数



### (3) 教育や不登校などの相談及び支援・情報の提供活動

#### 1. 教育や不登校などの相談及び支援・情報提供活動について

当法人の多目的室(ルーム B)で、毎月第 3 土曜に一般公開で不登校親の会を開催。年間のべ12回の開催で、計72名が参加した。

団体季刊紙ゆう通信を発行し、年 4 回、1 回あたり約 200 通を作成、関係機関・会員などへ発送・情報の発信に努めた。また、WEB や SNS などのメディアでも、フリースクールの活動を中心に情報を発信・公開し、活動の透明性を高められるよう努め、当スクールに在籍しない不登校の子どもやその保護者を含め、学校外で学び育つ子どもの実態や取り組みについても発信した。発信回数等は表 2 の通り。

(表2) メディアの発信頻度

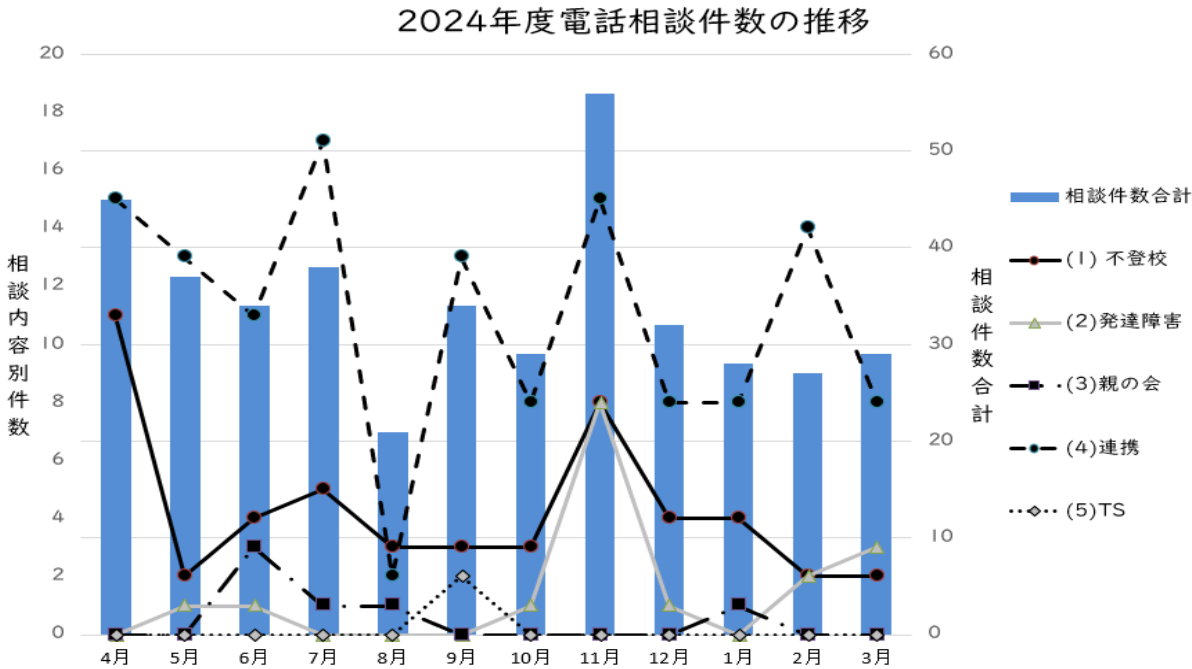
発信メディア	発信頻度	月平均	フォロワー/登録人数
X(旧 Twitter)	5 回/週	約 20 回	1,298 人
ブログ(CANPAN)	5 回/週	約 19 回	—
Facebook	5 回/週	約 17 回	824人
Instagram	5 回/週	約 17 回	429 人
YouTube	2回/年	約 0.1 回	307人

#### 2. インターンの受け入れについて

神戸学院大学・現代社会部から、実習生1名の受け入れ依頼があり、当法人のフリースクールで、4日間の教育・福祉実習の機会を提供した。

3. 日常的な相談支援について

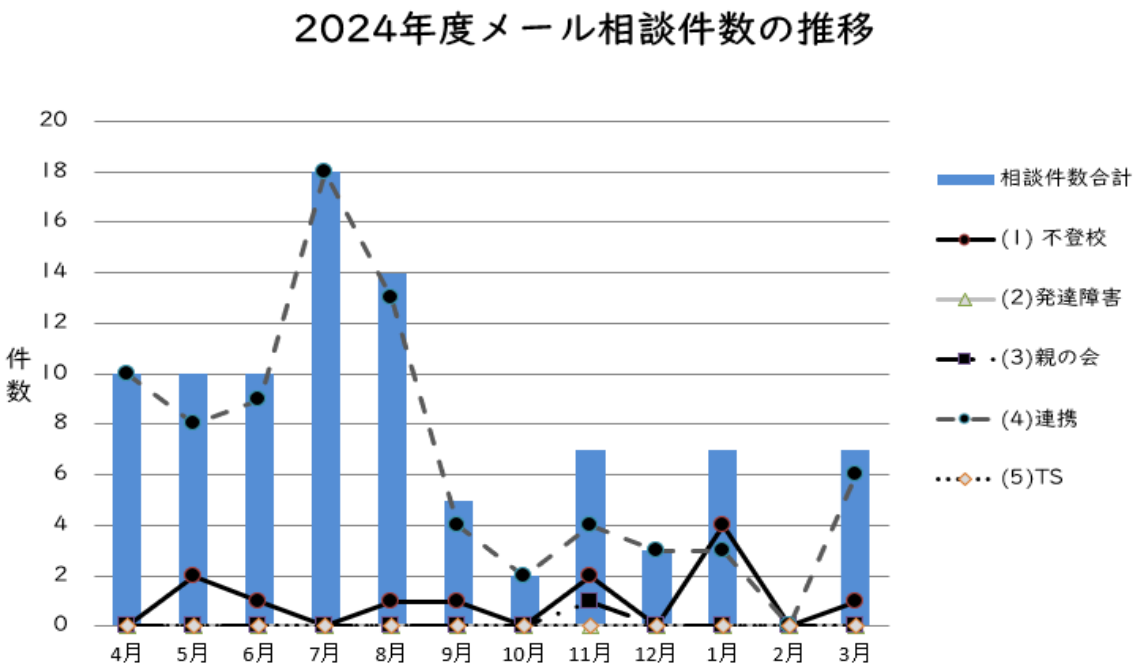
今年度の、問い合わせ・見学者・体験入学者・入学者数の、のべ人数と、フリースクール在籍者の月平均人数とその内訳、ならびに卒業者数ののべ人数は、表1の通り。



(表1) 本年度の相談件数ならびに在籍者数などの状況

問合せ件数	見学者数	体験入学者数	入学者数	在籍者数	卒業者数
のべ 46 人	のべ 36 人	のべ 10 人	のべ 5 人	※平均 23 人	のべ 12 人

(※在籍者数の内訳:小学生 12 人、中学生 11 人、高校生 0.0 人)



4. 親の会例会を毎月第3土曜日の午後2時から4時まで、8月を除く11回開催した。  
今年度は隔年に行う「お母さんのための思春期講座」(全5回連続講座／講師：渡辺和美先生)  
を、6月から11月まで開催し、延べ42人の参加があった。詳細は表1の通り。

実施内容		在籍者数
4月	親の会	7名
5月	親の会	7名
6月	親の会 お母さんのための思春期講座	7名
7月	親の会 お母さんのための思春期講座	7名
8月	世話人(山口さん)がシンポジウムに登壇	7名
9月	親の会 お母さんのための思春期講座	9名
10月	親の会 お母さんのための思春期講座	7名
11月	親の会 お母さんのための思春期講座	7名
12月	親の会(不登校訪問支援者の通称『なすびさん』をゲストに実施)	7名
1月	親の会	7名
2月	親の会(フリースchoolの卒業生2名を招いて、経験談)	9名
3月	親の会(お父さん2組を交えて「父親から見た不登校」)	6名

(表1) 親の会事業報告

上記のように単なる例会だけでなく、外部の方とか卒業生などを招いて、幅広く親の学習の機会と交流の場を持つことができた。

#### 5. トワイライトスペースたるみ

家庭的にしんどい背景を持つ、子ども・若者(11歳～20歳)を対象として毎週月・木曜日16:00～20:00にプログラムを実施した。また、居場所の運営・利用者対応に加え、メール・電話・LINEによる相談と場合により行政機関との連携を行った。今年度は、より過ごしやすい環境にするため、ソファやコーヒーマーカーを購入し、カフェの要素を取り入れた。  
平日に電話、メールによる相談を受けた。年間の相談件数と内訳や推移は、表1の通り。

(表1) 年間の相談件数と内訳・推移)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
トワイライトスペース事業日数	6回	8回	8回	8回	7回	7回	8回	7回	8回	7回	7回	7回	88回
相談・利用者人数	2人	2人	0人	4人	0人	3人	3人	1人	1人	2人	0人	0人	18人
連携件数	2件	0件	0件	0件	2件	0件	0件	0件	2件	2件	12件	0件	20件

## 【現状と課題】

今年度は、居心地の良い居場所になるように環境を充実させるなどの工夫を行ってきたが、やはり居場所の利用につながるまでが大きな課題となっている。相談では、昨年度から継続のケースもあるため、もう少し相談事業に力を入れるよう検討する。

## (5) その他第3条の目的を達成するために必要な事業及び前号の事業に付帯する事業

### 1. 不登校・教育に関する施策への提言

フリースクール全国ネットワークなどが主催する会議体において、不登校支援団体との意見交換や各種提言、企画などに協力した。また「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法」（教育確保法）の成立に伴い引き続き「兵庫県フリースクール連絡協議会」に主体的に参画し、各教育委員会（神戸市／明石市／尼崎市など）との連絡会に参加し、不登校の子どものために、より良い環境設定の要望を示した。

登校拒否・不登校を考える全国ネットワークの夏の全国大会のサテライト会場を主宰、オンラインによる参加者を含め 300 余人の参加者があった。

### 2. 当法人の実績を活かし、行政や福祉分野などの多様なセクターと協働・提案する事業

当法人の取り組みを通じて得られた教育・福祉・子ども・青少年などの分野の活動実績を活かし、神戸市垂水区社会福祉協議会の協働コーディネート事業を受託、福祉分野の広報を支援する事業やネットワーク、情報処理のインフラ構築業務などに従事した。

神戸市垂水区役所地域協働課の協働コーディネート事業を受託。神戸市垂水区内で、地域活動に取り組む非営利団体などの相談を受け、垂水魅力アップ活動助成・神戸市 NPO 等補助をはじめとする各種助成金の申請支援や運営相談に従事。当法人の活動で得てきた知見をベースに同助成受託団体の事業に対し、助言ならびに伴走支援を行った。

### 3. 当法人の実績を活かし、講演・講義などを行う事業

神戸市内の社会福祉協議会、神戸大学、地域活動団体から不登校や教育をテーマとした講演・講座の依頼を受け、当法人の職員が登壇した。また、神戸市内の公立中学校、明石清水高等学校などからの依頼を受けて、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとしたワークショップを企画・開催した。

※2.3 の委託や講演等で得られた委託費、講演料、謝金は、当法人のフリースクールの運営を安定させるための財源として活用した。